



2026 年 9 月
第 777 号

日本基督教団 平塚教会

発行人 平塚教会

編集人 日下部 明美

〒254-0045 平塚市見附町 6-18

電話 0463 (32) 8831



祈らない教会

平塚教会 北川一明

彼らは、使徒の教え、交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。

(使徒 二・42)

私の牧会が平塚教会を「祈らない教会」にしてしまったのではないかと心配しています。軌道修正が必要です。

目を閉じて手を組む「祈りの型」がみについている人は幸いです。苦しい時、型が自分を祈りに導き、自分を助けます。型は大切です。

それでも型どおりの祈りだけが祈りではありません。ポーズをとることで祈っているつもりになっただけです。祈ると言いながら、神に訴えるばかりで神の御心を尋ねようとしなければ、ただの独り言です。神の御声を聞くことが大切です。

そこで「形式はともかく、神の御前で深く考えることが祈りである」と、私は着任当初から言っていました。

私のこの理屈に飛びつく人は、中高年では女性よりも男性に多い気がします。私自身が、そう考えると安心できるからです。

平塚教会は、役員会の構成をみると、信仰面では男性中心の教会なのかもしれません。私の「祈祷論」のために、教会全体が共同の祈りの機会を減らしているなら、大きな問題です。

何かを決断する際「信仰的は、どうすべきか」を考えます。すなわち「祈り」です。「たぶんこうすべきだ」と考えがまとまっても、沃野体裁などから、自分の出した結論に自分が「従いたくない」と思うこともあります。

それでも祈りには奥があります。神は「やりたくないんですけど…」という人の正直な思いを聞いて

《 目 次 》

祈らない教会

牧師 北川一明・・・1

朝ドラの一ノ瀬リンは！ 中村寛志・・・3

「親子礼拝分級」始めました 倉持啓子・・・3

編集後祈

・・・4

くださり「なんで?」「じゃあこうすれば?」「この点では良くても、別の面ではこうなるよ」など…、神の御声が次々に聞こえてくるでしょう。そこまで祈れば「罪深い私にも、こんな善い決断ができた」と自分で驚くような結果になり、感謝もひとしおです。

個人の密室の祈りでは、ポーズをとらなくとも、考えを深めることはできます。しかし役員会でも教会の交わりの中でも、そこまで「神の御前で」深く考えるには、一緒に祈らなければなりません。

ところが私は…一人で祈る時にはちゃんと目を閉じて手を組む「型」を守りますが、そこへ妻が入ってくると、気恥ずかしさからポーズを解除したくなるのです。

一人勝手に感情的に盛り上がっているとされるのは厭ですし、型を外側から見ると「演技」に見えかねないと、妙に意識してしまうのです。思春期でもあるまいに、自意識過剰の無駄

な葛藤です。

宗教は、知性を捨てて信じ込むものではありません。ですから礼拝説教が神の御心を筋道を追って受け取るものになれば、信仰に有益です。そこで私は、説教では論理的整合性を保つような心がけています。

しかし礼拝の場はともかく、教会全体が「論理・整合性」という雰囲気になると、信仰は個人化して「信仰の交わり」という別の大切な要素が薄くなります。私には、今の平塚教会にはその傾向があるように思えます。

交わりが多いと余計な人間関係に巻き込まれそうで、人付き合いが苦手な人にとっては居心地が悪くなると心配でしょうか。しかし挨拶やおしゃべりなどの信徒同士の交わりは、必ずしも「信仰の交わり」とは限りません。信仰の交わりは、言葉数はむしろ少なくなるものです。

常に深刻に信仰で交わっていないけれ

ばならないわけではないので、楽しいおしゃべりも結構です。ただそれでは気付かぬうちに新来者を疎外する「仲良しサークル」になりがちです。

教会の対外的な活動も、祈りがないと単なる客寄せイベントになります。昨年は多くの労力を注いでオープンチャートを実施しました。しかし教会の思いを一つにする祈りが足りなかったと反省しています。それでは教会を盛んにすることにはならず、献身的な奉仕が活かされません。

信仰の交わりは、理解し合えるわけではない他者と一緒に困り、一緒に願いを求める交わりです。その結果神の前で一緒に黙らざるを得なくなります。

一人が悔い改めの思いに導かれたら他の人にもそれが伝わり、最後は皆が一つの思いで心の奥を神に注ぎ出すようになるのが信仰の交わりです。そんな信仰の交わりは、わずらわしい人間関係とは無縁です。

「親子礼拝分級」 を始めました

倉持 啓子

今年度から、親子礼拝の後、大人を対象に聖書の勉強会を始めましたので、ご紹介します。

その前に、皆様にお礼を申し上げたいことがあります。

三月の指定献金のことです。皆様の献金のおかげで、園児へ聖書や讃美歌をプレゼントすることができました。

献金は九万円程集まりました。その時の「指定献金」と書かれた封筒は、捨てきれずに大切に持っています。本当にありがとうございました。

親子礼拝の奏楽担当は、武田都美江姉、富田光子姉、山田美千代姉がレギュラーで、園児保護者の本瀬文愛さんと小宮美恵さんが手伝っています。

説教は、月二回は北川牧師、他は主に教会員です。青木恵美姉、金子昭兄、日下部明美姉、富田光子姉、中村寛志兄、中山洋司兄、西田薫姉、二宮純子姉、比企能哉兄、松田和子姉、山田美千代姉、李三悦兄、李知恩姉。この

方々にお願ひしています。

幼い子どもも聞きますが、大半は大人です。そのため、大人でも引き付けられる話になっています。説教の準備は大変なものだどご苦労はお察しします。しかし、皆様のご奉仕に支えられている親子礼拝ですので、お礼を申し上げると共に、これからもよろしくお願ひしたいと思っています。

さて、新しく始めた分級（聖書の勉強会）を紹介します。

十時頃、礼拝が終わると、全員三階に移動し、分級から参加する人と合流して集会室に集まります。

まず、日下部さんがリクエストされた讃美歌を一節歌い、そのあと彼女は退室、それから、お祈りをして、今日の説教の感想・質問タイム、次に聖書輪読（現在はルカによる福音書）。解説の後、思い思いに感想、質問、自分の体験等を話します。子どもや学生がまじっています。たいいてい男女十人位の大人（30代・40代）、ほとんど求道者ですが、皆さんご自分の聖書を持参して来られ、熱心です。

お祈りで閉じて10時20分には終

了です。

この時間帯は牧師も校長（役員）も礼拝の準備のため分級ができないのです。それで、私が担っているのです。自信満々でやっているわけではありません。どうか皆様、祈りによって私を支えてください。

保護者や求道者の方々を対象にした勉強会ですが、ずっと続いてほしいと切に願っています。暖かく見守っていただくさればうれしいです。

朝ドラの 一ノ瀬リンは！

中村寛志

NHKの朝ドラ「風、薫る」で出演している主人公の一ノ瀬リンは、大関和（チカ）として、もう一人の大屋直美は、鈴木雅（マサ）として実在した。

大関和は、看護学を東京で学び終えると、長野の軽井沢へ、その後さらに新潟の高田に寮の舎監として赴任している。

彼女は、植村正久牧師の奨めで看護を目指した。関係した教会で洗礼を受け、新潟で勤務するころには、現在の

日本基督教団高田教会と関係を持つ

現在、富山に住む私の娘が、修士課程を学んだ上越教育大学に高田教会に近い「地方へ行ったら、その教会に行って何かあったら力になってもらいなさい」と祖父の中村一誠に言われたとおりに娘は高田教会を尋ねた。その事がきっかけで、訪問先を聞いた祖母の中村義が、当時の辻阪牧師に手紙を書いたようである。その関連で高田教会の百年史を頂いた。これは約30年前の話になる。

その百年史を見て明治時代の受洗者の中に中村義は、母「石川みよの」の名前を見つけた。ようやく高田に住んでいた母みよのの信仰歴が分かった。

石川みよのは、高田に住み、受洗をきっかけに当時の路傍伝道を手伝っていたようである。その数年後に、妹の「石川きよ」も受洗した。我々が北朝鮮から引揚げた後、新潟で「きよ」の嫁ぎ先の本家に半年ほど間借り生活することにも繋がっていた。

高田教会百年史には、大関和の名前もあり、当地の看護学校、病院開設への関わりが頁を裂いて詳しく書かれて

いる。高田教会百年史を通じて、石川みよのも大関和と関連があると分かった。

高田に近い新井には、石川家からの流れになる土屋姓の一家が、医学に関わり、全員医者になったという新聞記事の切り抜きが、亡くなった中村義の遺品の中から出てきた。教会の伝道活動、キリスト教が看護と結びつき、他の社会情勢も絡まって、我が家の先々が朝ドラと間接的な関連があると分かり、不思議な気持ちにさせられた。

私の高校生時代に、新潟教会で一緒に礼拝を守っていた眞壁伍郎氏は、後に看護学校の講師として語ったものに加筆してまとめた、「いのちに寄り添うひとへ：看護の原点にあるもの」（日本看護協会）と題する本をまとめ、ナイチンゲールのこと、キリスト教との関連等をベースに看護とはという命題に答えて「看る」という視点から、その中心にあるものを教えている。良きサマリヤ人のたとえも引用しながら、看護とは、「看ること」であると。

朝ドラの中では、オプザブという言葉を、どの様に訳すかという場面も

あったが、まさに「手当する」、「観察する」、「見守る」というケアの深い部分に、当時のキリスト教が関連し、今でも通じるところとなっている。キリストの贖罪、神の見守り、導き、聖霊の働き、いずれも看護の根本に影響する大切な部分だ。

現在の教会は過去のものと違う、とは言っても、根底に流れるものは、今も変わらない。むしろその事によって、普遍性を維持していると思う。時を超えて、時代を超えてあり続けるもの、それが教会の基に、今も流れている。それは現代の人にも必ず通じる。看護の考え方は、神と人に仕えた人間イエスの姿そのものではないだろうか。鈴木雅は、その後、看護婦派遣協会の設立に関わり、現在の横浜、フエリス女学院とも関係がある。

「編集後祈」

ご在天の父なる神様おとずれ777号の発行を感謝します。天候不順な日々ですが、被害に遭われた地域に住まう方々が通常の日々を取り戻せますよう祈ります。